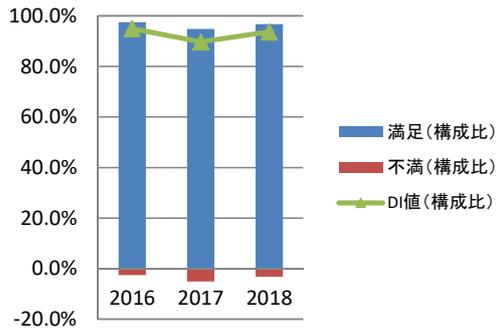


単位互換事業

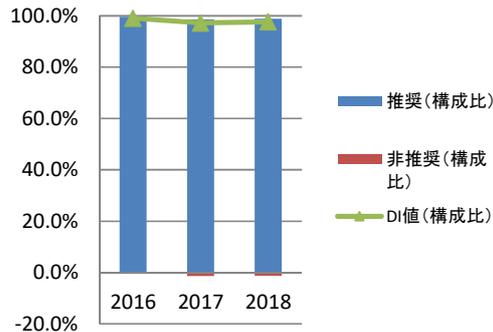
<事業概要>

単位互換制度とは、他大学が提供する正規科目を履修し、その単位が自大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都では、約50の大学・短期大学が一同に協定を締結し、制度を運営しており、日本最大の規模を誇ります。学生の探究心と幅広い知識を修得する意識の涵養のため、人文・社会・自然など各分野について、興味に応じて履修できるよう広く科目を提供しています。「量から質」への転換を図るべく、2015年度からは特色ある科目として、世界遺産を学びのフィールドとした「京都世界遺産PBL科目」を開設しました。また、2020年度からは京都の文化施設を学びのフィールドにした「京都ミュージアムPBL科目」を開設します。

参加者満足度 DI値



他者推奨度 DI値



参加者満足度

	2016	2017	2018
満足(名)	654	534	334
不満(名)	17	29	11
満足(構成比)	97.5%	94.8%	96.8%
不満(構成比)	-2.5%	-5.2%	-3.2%
DI値(構成比)	94.9%	89.7%	93.6%
参加者数(名)	3,120	2,400	1,842

他者推奨度

	2016	2017	2018
推奨(名)	644	508	333
非推奨(名)	3	7	4
推奨(構成比)	99.5%	98.6%	98.8%
非推奨(構成比)	-0.5%	-1.4%	-1.2%
DI値(構成比)	99.1%	97.3%	97.6%
参加者数(名)	3,120	2,400	1,842

<参加者の声>

- 他大学の授業を受けることができるのは面白い
- 自身が通う大学にはない講義を受けることができた
- 単位互換制度を通じて、他大学の人や他学年・地域の人と関わってとても刺激を受けた
- 京都駅で受けられるのがよい
- 他大学と一緒に参加することで交流もでき、さまざまな異なる考えも出てきた
- 様々な大学の講義を受講できることは、自分の枠組みを広げることにもなるのでかなり良い制度だと思う
- 普段とは違った大学の雰囲気を味わうことができ、学修内容も自大学では学べない分野に触れることができた

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- プラザ科目における休講基準について、公共交通機関における計画運休や特別警報の運用が開始されていることなどもあり、学生が明確に判断できるよう現状に則した形で休講基準の見直しを行った
- これまで学生への統一的な授業連絡の実施方法が財団HPを使用するなど学生の確認頻度が低い場所であったため、利用頻度の高いe京都ラーニングにおいて重要な掲示板機能を新設し、お知らせ機能の強化を行った
- 特色のある科目や京都ならではの科目の更なる充実した開講を望む声を受け、京都世界遺産PBL科目開設し、2020年度からが京都ミュージアムPBL科目の新規開設されるなど、新たな学びのフィールドの拡充を行った

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>